

GPS trajectory linked data

データの概要

- 神戸にて開催された国際会議ISWC2016における実証実験として、海外からの会議出席者から参加者(ボランティア)を募り収集した「国際会議出席者の移動履歴データ」です。
- 参加者には貸与した「GPSロガー」を会議期間中、持ち歩いてもらい、どのような場所を移動したかのデータを収集しました。
- 収集データの概要は、下記の通りです。
 - 収集期間: 2016/10/17-2016/10/21
 - 収集データ数: 被験者11名分(※個人情報は一切取得せず)
 - 収集内容: 約1分ごとの緯度経度および時間
- 収集したデータは、GXP形式, CSV形式, に加え、オープンデータを使って作成したPOI(Point Of Interest)情報をもとにRDFに変換し、SPARQLエンドポイント(API)を合わせて公開しています。

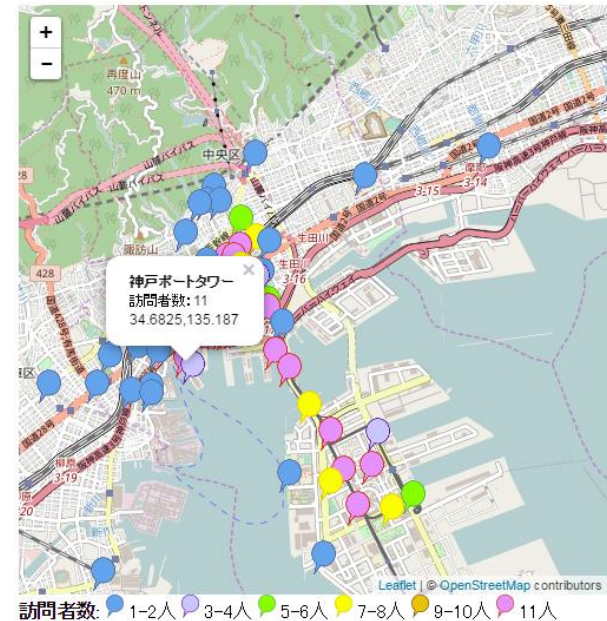


図1 参加者が訪問したスポットの訪問した人数毎の可視化

データ公開のねらい

- 国際会議の参加者が、「会議以外の時間帯に、どのような場所に立ち寄るか?」は、インバウンド向けの施策を考える上で重要と思われます。
- 今回、収集・公開したデータは、数は少ないですが、各参加者の「全移動履歴」が含まれるため、[各個人の行動の詳細な分析](#)が行えます。
- また、RDF形式に変換することで、移動軌跡を有向グラフとして捉え、SPARQLクエリによる直感的な分析が可能となりました。
 - 例えば、「本実験の参加者全員が立ち寄ったスポット」(図1参照)といった検索が出来ます
- RDF形式の変換は、オープンデータを用いた汎用的な仕組みを利用しているため、POI情報に利用するデータを変えることで、様々な詳細度でのRDF化が可能です。